

令和 2 年 9 月 15 日現在

機関番号：32416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2019

課題番号：26350784

研究課題名(和文) タレント発掘された子供の育成環境と発掘事業参加による精神面への影響調査

研究課題名(英文) Investigation of the child-nurturing environment when selecting a TID project and the mental effect on the child after participating in TID

研究代表者

久保 潤二郎 (Kubo, Junjiro)

平成国際大学・スポーツ健康学部・准教授

研究者番号：10360728

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、小学4年生でタレント発掘された子どもの育成環境を調査した。育成環境として、練習回数と各運動能力の関係を調査したところ、特に、持久力は練習回数の影響を強く受けることが明らかとなった。また、発掘事業に参加する子どもの誕生月を調査したところ、早生まれの子どもは、他の誕生月の子どもと比較して、そもそも参加が少なく、形態が小さいためメディシンボール投げのように身体の大きさが関係する測定項目では不利になることが示唆された。上記2点は、この年代の子どもを対象に、タレント発掘事業を実施する場合、注意すべき点であると考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

タレント発掘事業は、国内外問わず盛んに行われている。しかし、十分なエビデンスに基づいていないという批判も多い。本研究で示された小学4年生時点での持久力が、かなり後天的に獲得されているということ、誕生月が発掘プロジェクトへの参加段階から影響していることは、TID事業を実施する上での重要な知見である。また、小学4年生時点での各運動能力に対する練習回数の影響の違いを示せたことも学術的な意義は高いと考えている。

研究成果の概要(英文)：In this study, we investigated the environment for children selected by the Talent Identification and Development (TID) Project in the fourth grade. An investigation into the relationship between the number of practices per week and each physical ability indicated that endurance ability was strongly influenced by the number of practices per week. In addition, children born early in the year were less likely to participate and were smaller physically than children born later in the year. An early birth month had a negative effect on physical ability related to body size, such as throwing a medicine ball. Thus, the above two points must be carefully evaluated when implementing a TID project.

研究分野：スポーツ科学

キーワード：タレント発掘 持久力 pre-PHV 誕生月

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国際競技力向上のためにスポーツで才能ある子どもを早めに発掘するタレント発掘事業が、国内外で盛んに行われている。日本においても次の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、多くの都道府県、競技団体等でこの活動が行われている。しかし、これら事業の中身は検証されていないのが現状である。また、発掘された子ども達は、様々なトレーニングプログラムが処方されることとなるが、そのプログラムは一般の子どもの発育発達研究がベースとなっている。タレント発掘されるような卓越して高い運動能力を有する子どもの育成方法に関する調査は極めて少ない。さらに、タレント発掘事業により発掘されることは、子ども本人はもとより保護者にとっても非常に大きな出来事であるが、この事業による精神面の影響を調査した報告は見当たらない。

2. 研究の目的

本研究は、タレント発掘された卓越して高い運動能力を有する子どもの育成環境の調査と発掘されたことによる精神面の影響を調査することを目的とした。

3. 研究の方法

1) タレント発掘事業へ参加する子どもの誕生日と運動能力の関係

タレント発掘事業の第1次選考、第2次選考および選考された子どもの誕生日と各運動能力の関係を調査した。

2) タレント発掘された子どもの運動能力の発達(縦断的研究)

小学4年生でタレント発掘された子どもの運動能力の変化を3年間に渡り調査した。

3) タレント事業に参加した子どもの習い事の回数と各運動能力の関係

タレント発掘事業に参加した子どもおよび選考された子どもの週当たりのスポーツの習い事の回数と各運動能力の関係を調査した。

4) タレント発掘されたことによる精神面の影響の調査

タレント発掘された子どもの保護者を対象に、子どもの精神面の調査をインタビュー形式で実施した。

4. 研究成果

1) タレント発掘事業へ参加する子どもの誕生日と運動能力の関係

タレント発掘事業第1ステージに参加した男子668名、女子552名を誕生日により、4月から6月生まれ、7月から9月生まれ、10月から12月生まれ、1月から3月生まれに分類し、人数をカイ二乗検定により比較した結果、男子女子とも早生まれ(1月から3月)の子どもの人数が他と比較して有意に少なかった($p < 0.05$)。また、女子は、第2ステージおよび最終選考に残った早生まれの子どもの人数が他と比較して有意に少なかった($p < 0.05$)。また、男子の早生まれの子どもは、他の誕生日の子どもと比較して身長が有意に低く($p < 0.05$)、メディシンボール投げの結果が有意に劣っていることが明らかとなった($p < 0.05$)。

2) タレント発掘された子どもの運動能力の発達(縦断的研究)

小学4年生でタレント発掘された子どもの運動能力を3年間に渡り調査したところ男子女子とも小学5年から6年において持久力の有意な変化が見られず、女子は50m走にも同様の傾向が見られた。小学生年代で練習が多いことが早くから持続的能力を発達させ、その結果、6年生時点で停滞している可能性が示唆された。

3) タレント事業に参加した子どもの習い事の回数と各運動能力の関係

小学4年生の男子でタレント発掘事業に参加した子どもの中で、サッカー(178名)および水泳(157名)に取り組んでいる子どもの週当たりの練習回数と各運動能力を調査したところ種目問わず週当たりの練習回数が多いほど持久力(20mシャトルラン)が有意に高く($p < 0.05$, 0.01 , 図)。サッカー群のスピード(50m走)が僅かに練習回数との関係が見られたが、敏捷性やパワーに関しては、練習回数との関係は見られなかった。さらに、タレント発掘された子どもの中でも男子女子ともに同様の比較を行ったところ、女子のみ週当たりの練習回数が多い程、持久力が高いことが明らかとなった($p < 0.05$)。他の運動能力に関して、週当たりの練習回数との関係は見られなかった。

4) タレント発掘されたことによる精神面の影響の調査

タレント発掘された子どもの保護者を対象に、子どもの精神面の調査をインタビュー形式で実施した。タレント発掘事業実施の中でインタビューを実施することもあり、予定通り進めることが難しかった。発掘されたことによる子どもの変化としては、概ね肯定的な意見が多かった。

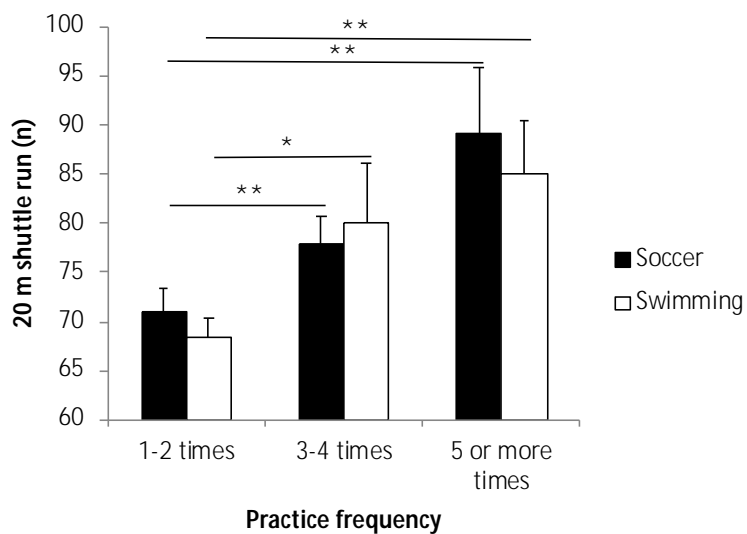


図 週当たりの練習回数と20mシャトルランの結果

*p < 0.05, ** p < 0.01

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 久保潤二郎、西川誠太、森丘保典、有川秀之、玉木啓一
2. 発表標題 誕生日の違いがスポーツ選手のタレント発掘選考結果に及ぼす影響 - 埼玉県「彩の国プラチナキッズ」を例に -
3. 学会等名 第28回日本トレーニング科学学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 久保潤二郎、玉木啓一、有川秀之
2. 発表標題 タレント発掘された子どもの運動能力の発達に関する縦断的研究
3. 学会等名 日本発育発達学会 第15回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保潤二郎、玉木啓一、有川秀之
2. 発表標題 タレント発掘された子どもの習い事の回数と各運動能力の関係
3. 学会等名 日本発育発達学会 第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Junjiro Kubo, Keiichi Tamaki, Hideyuki Arikawa
2. 発表標題 Effects of practice frequency on the physical fitness of fourth grade soccer players
3. 学会等名 The 3rd Asia-Pacific conference on Coaching Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保潤二郎、玉木啓一、有川秀之
2. 発表標題 タレント発掘された子どものスポーツ関連の習い事の回数とその実施種目～埼玉県プラチナキッズ事業で発掘された小学4年生を対象として～
3. 学会等名 日本発育発達学会 第17回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junjiro Kubo, Keiichi Tamaki, Hideyuki Arikawa
2. 発表標題 Effects of practice frequency on the physical fitness of fourth graders-A study of soccer and swimming practices-
3. 学会等名 HEALTHY AND ACTIVE CHILDREN (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	玉木 啓一 (Tamaki Keiichi)		
研究協力者	有川 秀之 (Arikawa Hideyuki)		